

短 報

富山湾における鯨類の記録(2018年)*

南部 久男¹⁾, 田島 木綿子²⁾, 山田 格²⁾

¹⁾ 富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

²⁾ 国立科学博物館動物研究部

305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

Records of marine mammals in Toyama Bay, Sea of Japan, 2018

Hisao Nambu¹⁾, Yuko Tajima²⁾
and Tadasu K. Yamada²⁾

¹⁾ Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi,
Toyama 939-8084, Japan

²⁾ National Museum of Nature and Science, Department
of Zoology, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-
0005, Japan

1. はじめに

富山湾(富山県側)の鯨類や鰭脚類については筆者らにより, 2001年から漂着調査等が継続的に行なわれている(南部ら, 2002~2018). 本稿では2018年に富山湾で確認された鯨類について報告する.

2. 方法

鯨類の漂着については, 情報を得しだい, 現地での体長の計測, 体表から観察できる損傷状況の確認, 写真撮影等を行った. 目撃情報が得られた場合は, 聞き取り調査, インターネットからの情報収集等を行った. なお, マッコウクジラ, ミナミハンドウイルカについては別途報告されており(南部ら, 2018; 森ら, 2018a, b), 本報告では概要のみを述べる.

3. 結果及び考察

2018年に富山湾で確認した鯨類はヒゲクジラでは, ナガスクジラ科のミンククジラ, 同科ナガスクジラ属の一種, 同科ザトウクジラ, ハクジラでは, マッコウクジラ科のマッコウクジラ, マイルカ科のミナミハンドウイルカ, 同科ハンドウイルカ属の一種であった. 各種の出現海域を図1に示す. 以下に出現状況を記す.

3.1 ミンククジラ *Balaenoptera acutorostrata*

【発見日】2018年6月10日, 朝

【発見者】市民

【発見場所】氷見市地蔵町(図1-1)のコンクリート護岸近くで漂う.

【現地調査】6月10日, 11日, 南部が現地調査を行う. 10日には頭骨前部が存在したが, 11日には無くなっていた. 11日の計測では全長は約4.2mであった(頭部と尾は欠損).

【サメによると思われる咬傷痕について】腹部には大小様々なサメによると思われる咬傷痕が8ヶ所認められた(図2A~H). 大きな咬傷痕(10~20 cmほど)が4ヶ所(図2A, B, G, H)あった. 何個もの小さな咬傷痕が集まっているものが3ヶ所あった(図2C, D, E). 大きな咬傷痕の周辺に小さな咬傷痕があるものが1ヶ所あった(図2F). A, B, Fは内臓が露出していた. B2は大きな咬傷痕B1を切り取ったもので, 咬傷痕の大きさは22 cm×22 cmであった.

3.2 ナガスクジラ属の一種 *Balaenoptera* sp.

伏木海上保安部の情報提供による出現状況を以下に示す.

【発見日】2018年7月20日

【発見者】伏木海上保安部

【発見場所】庄川河口沖富山湾

【出現状況】2018年7月20日, 巡視船「のりくら」がパトロール中に高岡市伏木沖でクジラを発見した(伏木海上保安部, no date; 図1-2, 3). 発見時間は, 午前9時14分頃で, 約4分間南南東方向(新湊方面)へゆっくり泳

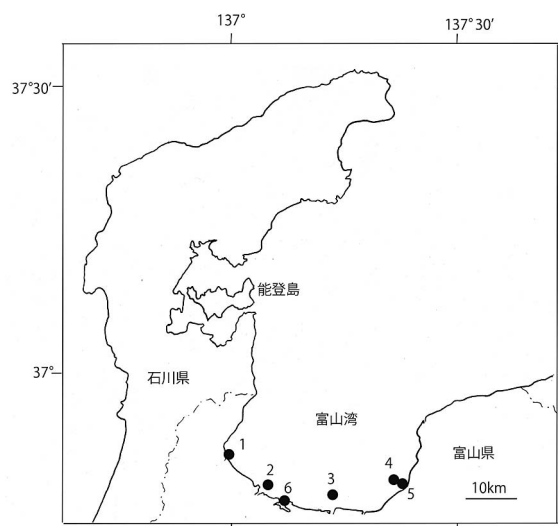


図1 富山湾における鯨類の確認地点. 1, 氷見市地蔵町; 2, 射水市新湊地域富山新港; 3, 富山市神通川河口沖, 4と5魚津市村木定坊割沖.

* 富山市科学博物館研究業績第551号

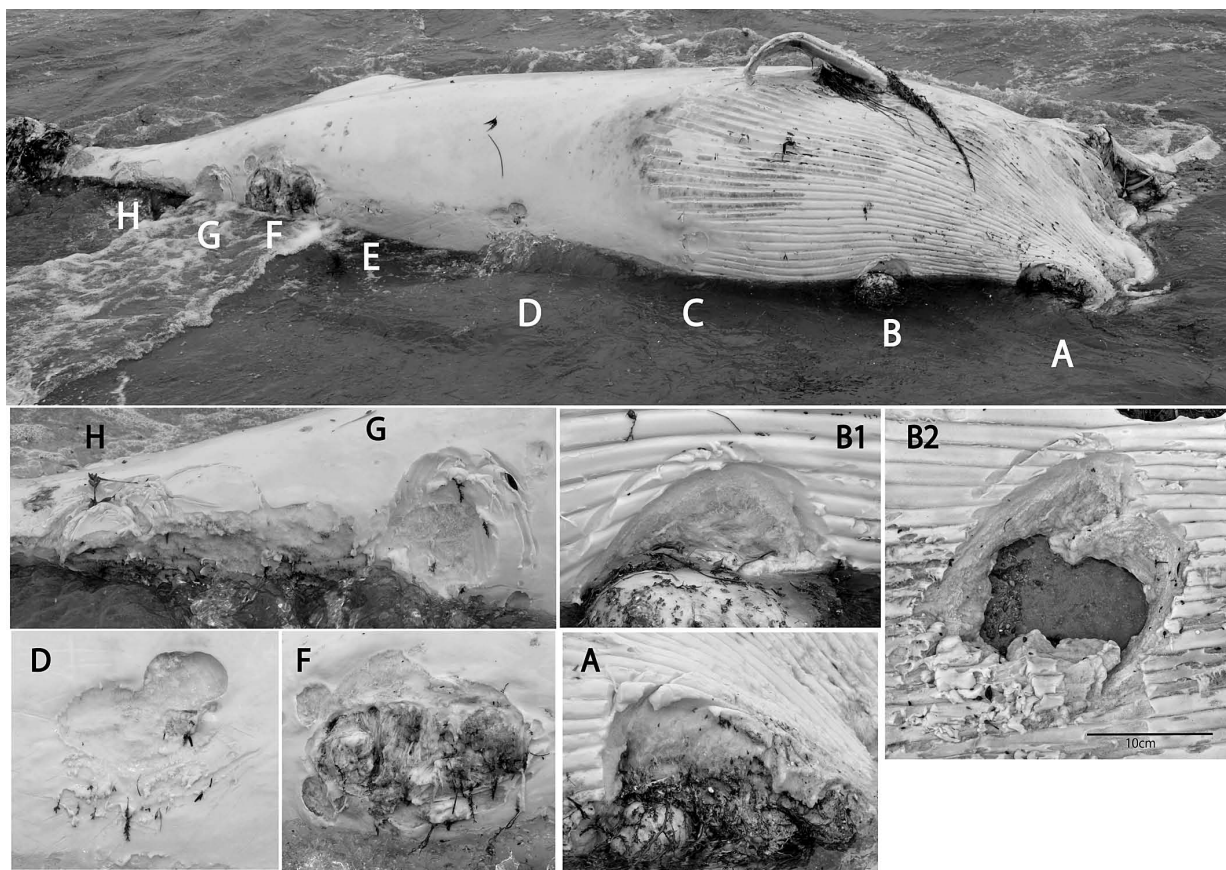


図2 ミンククジラの腹部のサメによると思われる咬傷痕。中，下段は上段のA～Hの拡大（CとEは無い）で，B2は，B1を切り取り，コンクリートの上に置いたもの。氷見市地蔵町で2018年6月11日撮影。

ぎ，最後に潜水し，姿を現すことはなかった。遊泳中に噴気も観察された（図3C，D）。クジラは見える部分で約10mと推測された。発見位置は，北緯36度48.98分，東経137度06.16分で，発見海域の水深は約412～345mである。クジラの出現海域は庄川河口から富山湾に伸びる海底谷の先端の急に深くなっている海域であるが，クジラが遊泳していた南南東の方向は射水市新湊地域の沿岸にあたり，その海域の水深は110～30mと浅くなる。

【類似種との比較】今回出現したクジラは，見える体の部分が約10mであることから，体長は十数mと推測され，二つの噴気孔や体幹からナガクジラ属の一種（*Balaenoptera* sp.）と考えられる。近年，日本近海で確認され，今回のクジラと類似しているナガクジラ属には，ナガスクジラ（Fin whale, *Balaenoptera physalus*），ツノシマクジラ（Omura's Whale, *B. omurai*），ニタリクジラ（Bryde's whale, *B. brydei*），カツオクジラ（Eden's whale, *B. edeni*），イワシクジラ（Sei whale, *B. borealis*）があげられる。その内日本海には，ナガスクジラ，ツノシマクジラ，カツオクジラが知られ，富山湾にはナガスクジラが確認されている（石川，2013）。また，日本海と対馬海峡で連絡する東シナ海には，広義のニタリクジラが生息するが（木白，2012），Yamada and

Ishikawa (2009) によれば，これらの海域には，カツオクジラ（Eden's whale, *B. edeni*）が分布し，ここではこの海域のクジラをカツオクジラとして扱う。

今回，富山湾に出現したクジラの背ビレの形状と上述のクジラのそれを比較するため，『世界のクジラ・イルカ百科図鑑』（ベルタ編，2018）の背ビレの記述とインターネット上に公開されている文献等の背ビレの画像（欠損が見られないもの）を参考に，以下に類似種の背ビレの形状を示す。なお，『 』は上述の図鑑の記述を，「 」は文献等の画像から判断した背ビレの形状を示す。ツノシマクジラの背ビレは，『フックした背びれ，直立して先端は丸い。形には個体差がある』，マダカスカルの2頭は，「フック型（先端は細長く丸い）」（Cerchio *et al.*, 2015），スリランカの1個体の背ビレは「鎌形」である（de Vos, 2017）。イワシクジラの背ビレは『鎌形で高く，直立する』，南極のイワシクジラ1個体の背ビレは「直立した細い鎌形」である（Wildlife images, no date）。ニタリクジラでは『背ビレは小さく湾曲する』，タイのニタリクジラ5個体の背ビレは，「先端細く湾曲」が3個体，「フック型」が1個体，「鎌型」が1個体であった（Thongsukdee and Adulyanukosol, no data）。ニュージーランドのニタリクジラ2個体の背ビレは「鎌形」であった（Wildlife

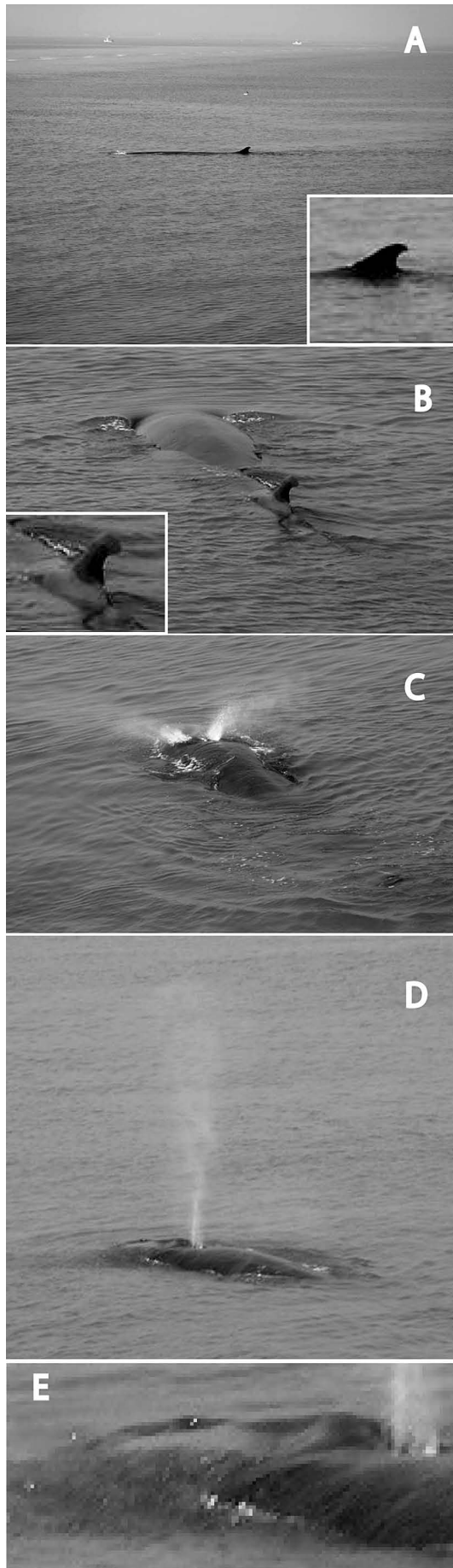


図3 A, 遊泳中のクジラ。右下は背ビレの拡大。B, 遊泳中のクジラ。左下は背ビレの拡大（背ビレ先端が後方に曲がる）。CとD, 噴気を上げる。E, Dの頭部の拡大。射水市庄川河口沖で2018年7月20撮影。写真はいずれも伏木海上保安部提供。

images, no date). カツオクジラでは、西日本の太平洋側と東シナ海のカツオクジラの胸ビレは、38個体中36個体が「鎌型」、1個体が「フック型」、1個体が「ややフック型」であった（木白, 2011）。ナガスクジラは『鎌形』、オーストラリアの5個体の胸ビレは「鎌形」であった（Wildlife images, no date）。

今回富山湾に出現したクジラの背ビレは「フック型」であった（図3A, B）。上述のナガスクジラ属の中で背ビレの形状がフック型は、ツノシマクジラに現れ、カツオクジラには少数現れた。

次に吻部背面の特徴を今回の個体とツノシマクジラ、カツオクジラ、さらにカツオクジラと類似するニタリクジラと比較する。カツオクジラとニタリクジラには吻部背面に3本の稜（中央に1本及び左右両側にそれぞれ1本）があり、ツノシマクジラには1本（中央のみ）存在する（Yamada, 2009; Yamada and Ishikawa, 2009）。今回の個体の吻部背面には中央に稜が1本存在し、左側には稜は存在しないように見えることから（図3E）、稜は中央の1本だけ存在し、本個体の吻部背面はツノシマクジラの特徴を示すと思われる。

以上のように、吻部背面の稜の有無、尾ビレの形状、日本海での分布から、今回の個体はツノシマクジラの可能性が考えられる。

3.3 ザトウクジラ *Megaptera novaeangliae*

伏木海上保安部の情報提供による出現状況を以下に示す。

【発見日】2018年10月25日

【発見者】伏木海上保安部

【発見場所】神通川河口沖富山湾

【発見状況】2018年10月25日、伏木海上保安部により、



図4 腹部を上しして漂流するザトウクジラ。神通川河口沖で2018年10月25日撮影。写真は伏木海上保安部提供。

富山市岩瀬沖合で（北緯36度48.26分，東経137度13.49分）漂流している鯨の死骸（全長6 m）が確認された（図4）。

【同定】本個体は，ウネが相対的に太いことや，胸ビレが長いことから，ザトウクジラと同定された。

3.4 マッコウクジラ *Physeter macrocephalus*

南部ら（2018）によってすでに報告されているが，出現状況の概要を述べる。

【発見日】2018年4月22日

【発見者】市民

【発見場所】魚津市沖富山湾

【発見状況】2018年4月22日に，富山湾魚津市沖4～5 km，水深約600 mの海域で遊泳中のマッコウクジラ1頭が目撃された。マッコウクジラは15時頃に5～6分程北北東へ遊泳し，最後に尾ビレを上げて潜水した。本個体は体長11～15 mの性成熟に達したオスと推定された。

3.5 カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens*

【目撃日】2018年5月27日，10:30頃

【目撃者】横田誠氏による目撃

【目撃場所】魚津市村木沿岸

【目撃状況】魚津市村木沿岸で（図1-1），イルカの群れが20分ほどの間に，次から次へと北北東（黒部市・新潟県方面）へ遊泳していった。総頭数は50頭以上であったと思われる。

【同定】イルカが撮影された14枚のデジタル画像で，同定できたイルカは全てカマイルカであった。その内1枚の画像では（図5上），海面上に体が見える9頭のうち，背びれの形状と色彩から，5頭がカマイルカと同定され，他は同定不能であった。波しぶきをあげたイルカを含めて計13頭写っていたと思われる。同定できなかったイルカもカマイルカであったと思われる。



図5 魚津市村木の沿岸に出現したカマイルカ（上，群れ；下は上と別画像の個体，背ビレの形状やグレーと白の体色が本種の特徴を備える。2018年5月5日撮影。写真撮影横田誠氏。

3.6 ミナミハンドウイルカ *Tursiops aduncus*

森ら（2018a, b）によって報告されているが，出現状況の概要を述べる。

2001年秋に石川県能登島七尾湾に2頭のミナミハンドウイルカが定着し，その後13頭まで増加した。七尾湾内を主な活動場所としていたが，2018年3月3日に射水市新湊沿岸で確認され，その後は氷見市余川河口から阿尾城趾の入り江を中心に観察されるようになった。5月19日には再び七尾湾内で全頭（13頭）確認されるようになった。

3.7 ハンドウイルカ属の一種 *Tursiops* sp.

富山新港（射水市）での2例のハンドウイルカ属の一種の出現状況について述べる。

・1 例目

富山テレビ（10月24日夕方視聴）の情報と10月30日に実施した現地での聞き取り調査の結果について述べる。

【出現日】2018年10月24日

【出現場所】富山新港周辺（射水市）

【出現状況】イルカが射水市新湊地域沿岸に出現した。10月24日正午頃に，イルカの群れが勢いよくジャンプしながら富山新港入り口から港内に進入していた（富山テレビ，10月24日夕方視聴）。映像に写っていた最も多い頭数は6頭であった。10月30日に実施した富山新港付近の釣り人からの聞き取りでは，10月24日はイルカが富山新港のかなり奥まで進入し，長時間滞留していたとのことであった。

【同定】ハンドウイルカ属の一種と考えられ，ミナミハンドウイルカ又はハンドウイルカの可能性がある。

・2 例目

YouTubeに公開されている映像（野崎，2018）から得られた情報について述べる。

【出現日】2018年11月2日16時30分頃

【出現場所】富山新港周辺（射水市）

【出現状況】11月2日16時30分頃，富山新港内にイルカが来遊し，遊泳と潜水を繰り返す，最高で6頭が確認できた（野崎，2018）。10月24日のイルカの出現状況と似ていた。

【同定】ハンドウイルカ属の一種と考えられ，ミナミハンドウイルカ又はハンドウイルカの可能性がある。

4. まとめ

2018年は，2001年から報告してきた富山湾の鯨類の記録（南部ら，2002～2018）の中でも次の点で特異な年であった。①2001年以来石川県能登島に棲みつき，移動の報告がなかったミナミハンドウイルカが氷見市沖に出現し，再び能登島へ戻っていった。②富山湾（富山県側）でのイルカ（カマイルカ，ハンドウイルカ，ハナゴンドウ，イシイルカ）の発見は主に1～6月であるが，2018年

10月下旬から11月上旬にかけハンドウイルカ属 (ハンドウイルカ又はミナミハンドウイルカ) の小群が射水市沿岸に出現した。③2018年4月22日に、富山湾では初記録となるマッコウクジラが魚津市沖に出現した。④2018年7月20日、ツノシマクジラと思われる個体が射水市新湊地域沖に出現した。

5. 謝辞

伏木海上保安部には富山湾の鯨類2種の貴重な写真の提供と出没状況についてご教示いただき、石川創氏には射水市沖のクジラについてご教示いただいた。森恭一博士には、ハンドウイルカとミナミハンドウイルカについてご教示いただいた。横田誠氏にはカマイルカの貴重な写真の提供と出没状況をご教示いただいた。皆様に心より感謝申し上げます。

6. 参考文献

- ベルタ・アナリサ (編)・山田 格 (監訳), 2016. 世界のクジラ・イルカ百科図鑑. 288p. 河出書房新社, 東京.
- Cerchio S., Andrianantenaina B., Lindsay A., Rekdahl M., Andrianarivelo N., and Rasoloarijao T., 2015. Omura's whales (*Balaenoptera omurai*) off northwest Madagascar: ecology, behaviour and conservation needs. *Royal Society Open Science*, 2 (10): 19pp.
- de Vos A., 2017. First record of Omura's whale, *Balaenoptera omurai*, in Sri Lankan waters *Marine Biodiversity Records*, 10: 18.
- 伏木海上保安部, no data. 写真館. <http://www.kaiho.mlit.go.jp/09kanku/fushiki/ibento2.html>. (2018年9月10日閲覧).
- 石川 創・後藤睦夫・茂越敏弘, 2013. 日本沿岸のストラニングレコード (1901~2012). 下関鯨類研究室報告, (1): 1-314.
- 木白俊哉, 2012. 西部北太平洋, 特に南西部日本沿岸におけるニタリクジラの資源生態学的研究. 東京海洋大学, 学位論文 (博士), 260pp.
- 森 恭一・近本杏里・南部久男・関東 雄・長越広憲・雨宮優香, 2018a. 能登島に定住していたミナミハンドウイルカの富山湾への移動. 日本セトロロジー研究会第29回 (福岡) 大会9講演要旨集, p. 39.
- 森 恭一・近本杏里・南部久男・関東 雄・長越広憲・雨宮優香, 2018b. 能登島のミナミハンドウイルカの富山湾への往来. 第2回シンポジウム「ミナミハンドウイルカの生態」プログラム&講演要旨, p. 16.
- 南部久男, 2009. 富山湾における鯨類の記録 (2008). 富山市科学博物館研究報告, (32): 115-116.
- 南部久男・稲村 修・田島木綿子・倉持利明・山田 格, 2002. 富山湾における鯨類 (Cetaceans) の記録 (2001年). 富山市科学文化センター研究報告, (25): 129-132.
- 南部久男・石川 創・山田 格・台藏正一・大田希生, 2007. 富山湾における鯨類の記録 (2006年). 富山市科学文化センター研究報告, (30): 63-68.
- 南部久男・石川 創・山田 格・田島木綿子・谷田部明子・台藏正一・大田希生, 2008. 富山湾における鯨類の記録 (2007年). 富山市科学文化センター研究報告, (31): 99-102.
- 南部久男・真柄真実・栗原 望・山田 格・関東 雄・台藏正一・石川雄士, 2010. 富山湾における鯨類の記録 (2009年). 富山市科学博物館研究報告, (33): 105-108.
- 南部久男・西岡 満・関谷伸一・山田 格・大田希生, 2004. 富山湾における鯨類の記録 (2003年). 富山市科学文化センター研究報告, (27): 75-78.
- 南部久男・西岡 満・田中 豊・大田希生, 2003. 富山湾における鯨類・ウミガメ類の記録 (2002年). 富山市科学文化センター研究報告, (26): 145-147.
- 南部久男・関東 雄・真柄真実・山田 格・大田希生・藤田将人, 2011. 富山湾における鯨類の記録 (2010年). 富山市科学博物館研究報告, (34): 141-144.
- 南部久男・関東 雄・田島木綿子・山田 格, 2016. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2015年). 富山市科学博物館研究報告, (40): 99-101.
- 南部久男・関東 雄・山田 格, 2015. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2014年). 富山市科学博物館研究報告, (39): 55-60.
- 南部久男・田島木綿子・新井上巳・山田 格・田中 豊・大田希生, 2005. 富山湾における鯨類の記録 (2004年). 富山市科学文化センター研究報告, (28): 91-94.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2012. 富山湾における鯨類の記録 (2011年). 富山市科学博物館研究報告, (35): 103-105.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2013. 富山湾における鯨類の記録 (2012年). 富山市科学博物館研究報告, (37): 109-110.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2017. 富山湾における鯨類の記録 (2016年). 富山市科学博物館研究報告, (41): 67-70.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2018. 富山湾における鯨類の記録 (2017年). 富山市科学博物館研究報告, (42): 65-67.
- 南部久男・山田 格, 2006. 富山湾における鯨類の記録

- (2005年). 富山市科学文化センター研究報告, (29) : 113-114.
- 野崎一馬, 2018. 野生のイルカ. <https://www.youtube.com/watch?v=r4s8Z307hug>. (2019年2月12日閲覧).
- 南部久男・石川 創・天野雅男・山田 格・大原淳一・石井雅之・田島木綿, 2018. 2018年4月に富山湾に出現したマッコウクジラ. 日本セトロロジー研究, (27) : 27-34.
- Thongsukdee S. and Adulyanukosol K., 2014. Study of Bryde's whale in the upper Gulf of Thailand.
- Wildlife images, no date. Whale. <https://pbase.com/wildlifeimages/whales>. (2019年2月17日閲覧).
- Yamada T. K., 2009. *Balaenoptera omurai* Wada, Oishi & Yamada, 2003. In: Ohdachi S. D., Ishibashi Y., Iwasa M. A. and Saito T. (eds.) *The Wild Mammals of Japan*, pp. 330-331. Shoukadoh, Kyoto.
- Yamada T. K. and Ishikawa H., 2009. *Balaenoptera brydei* Olsen, 1913 and *Balaenoptera edeni* Anderson, 1878. In: Ohdachi S. D., Ishibashi Y., Iwasa, M. A. and Saito T. (eds.) *The Wild Mammals of Japan*, pp. 325-327. Shoukadoh, Kyoto.